

平成 30 年度第 2 回小牧市都市計画マスタープラン策定委員会 議事録

1 開催日時

平成 30 年 11 月 9 日（金）14 時 00 分から

2 開催場所

小牧市役所 東庁舎 4 階 本会議用控室

3 出席委員（名簿順）

大塚 俊幸	中部大学教授
萩原 聡央	名古屋経済大学教授
名和 千博	小牧商工会議所
小柳 松夫	桃ヶ丘第 1 区長
水谷 勉	小牧原街道区長
船橋 武男	三ツ湊区長
舟橋 雅彦	本庄台区長
大見 明弘	愛知県建設部都市計画課主査（片山 貴視 代理）
林 克生	尾張建設事務所企画調整監
小林 直浩	地域活性化営業部長
渡辺 学	都市建設部長（都市整備担当）

4 欠席委員

生田 京子	名城大学准教授
長田 宏	尾張中央農業協同組合
酒井 美代子	小牧市女性の会
小塚 智也	市長公室長

5 事務局

小川 尋典	小牧市都市建設部次長（都市整備担当）
永井 浩仁	小牧市都市建設部都市政策課長
平野 淳也	小牧市都市建設部都市政策課課長補佐
大澤 正人	小牧市都市建設部都市政策課計画係長
白木 裕之	小牧市都市建設部都市政策課計画係技師
長谷川 裕一	小牧市都市建設部都市政策課計画係主事

6 傍聴者

2 名

7 会議内容

1 議題

- (1) 市民アンケート調査の結果について
- (2) ワーキンググループの検討状況について
- (3) 全体構想（案）について

2 その他

【事務局】（平野課長補佐）

定刻になりましたので、始めさせていただきます。

本日は、お忙しいところ、小牧市都市計画マスタープラン策定委員会にご出席を賜り、まことにありがとうございます。これより平成 30 年度第 2 回小牧市都市計画マスタープラン策定委員会を開催させていただきます。

初めに、事務局を代表して、都市建設部次長の小川よりご挨拶申し上げます。

【事務局】（小川次長）

皆様、こんにちは。

都市建設部の都市整備担当の小川と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、大変お忙しい中、また足元の悪い中ご出席を賜り、まことにありがとうございます。

さて、今年度 2 回目となります本日の策定委員会におきましては、8 月下旬から 9 月上旬ごろにかけて実施いたしました市民アンケート調査の結果についてと、庁内検討組織である策定部会のワーキング会議の検討状況それぞれの報告、そして、都市計画マスタープランにおける市全体の目標や将来の都市構造などを示す全体構想のうち、都市づくりの基本理念や目標に関する検討案につきましての 3 件を議題とさせていただきます。

委員の皆様方におかれましては、活発なご議論をお願いいたしまして、簡単ではございますが、冒頭の挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】（平野課長補佐）

続きまして、大塚委員長よりご挨拶をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【大塚委員長】

皆さん、こんにちは。

本日は第 2 回目になります。今までの 1 回目から 2 回目にかけて行われてきたアンケート調査あるいは現況のデータを分析して、今どういう問題を抱えているのか、小牧市はどういう強みを持っているのかというところが整理されてきました。それをもとに、これからの小牧の都市づくりについて、どこに重点を置いてやっていくのかというところの頭出しの部分が今日提案されています。大変重要な部分で、少し抽象的で発言しづらい部分があるかも知れませんが、これからの小牧の都市づくりについて、どのようなところに重点を置いてやっていったほうがいいのか、そうしたところから活発に皆さんにご議論していただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】（平野課長補佐）

ありがとうございました。

それでは、本日の資料について確認をさせていただきます。

本日の資料につきましては、事前に送付させていただいております次第の下段に記載があります資料 1 から資料 3 までの 3 点となっておりますが、ご不足等ございませんでしょうか。

【事務局】（平野課長補佐）

それでは、議事に入ります。

議事の進行につきましては委員長にお務めいただくことになっておりますので、大塚委員長に進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

【大塚委員長】

それでは、お手元の次第に従って議事を進めさせていただきます。

皆様には事務局から資料を事前に送付等していただいて、お目通しをいただいているということを前提に、資料もたくさんありますので、事務局から要点を簡潔に説明していただければと思っております。

それでは、今日は議題を3点用意しております。最初の二つの議題（1）（2）につきましては報告事項になりますので、この2点について事務局より一括して説明をいただければと思っております。よろしくお願いたします。

【事務局】（大澤係長）

それでは、議題（1）「市民アンケート調査の結果について」及び議題（2）「ワーキンググループの検討状況について」を一括してご説明させていただきます。

初めに、議題（1）「市民アンケート調査の結果について」ご説明いたしますので、恐れ入りますが、お手元の資料、資料1の1ページをお願いいたします。

調査の概要でございますが、今回のアンケート調査につきましては、小牧市在住の18歳以上の方3,000人を対象に実施し、回収率は52.2%となりました。

3ページをお願いいたします。

3ページから5ページにかけては、性別とか年齢、公共交通の利用頻度等の基本属性についての結果となります。

6ページをお願いいたします。

住んでみえる地域での満足度とか重要度についての結果となります。満足度が最も低い項目は「鉄道やバスなどの公共交通の便」であり、重要度が最も高い項目は「地域の防犯、治安対策」となっております。

7ページをお願いいたします。

こちらでは、先ほどの満足度及び重要度の得点をもとに、次のページにございます算出方法でニーズ得点を算出しまして、その平均得点をお示ししたものであります。すなわち満足度が低くて重要度が高いものがニーズの平均得点としては高いものになってまいります。その結果でございますが、7ページの上の表の部分でございますが、「鉄道やバスなどの公共交通の便について」とか「地域の防犯、治安対策」などの必要性が高い結果となりました。

9ページをお願いいたします。

おおむね10年から20年後の将来像についての結果となりますが、「鉄道やバスなどの公共交通の便がよいまち」になればよいと考えてみえる方が最も多くなっております。

10ページをお願いいたします。

小牧駅から小牧山にかけての中心拠点の今後のまちづくりの方向性につきまして、結果になりますが、「公共交通を利用しやすくする」ことや「医療・福祉等の日常生活に密接に関連した施

設を充実する」「身近な日常品を扱うスーパー、飲食店、レストランなどの商業施設を充実する」ことと回答される方が多くなっております。

11 ページをお願いいたします。

定住及び住みかえの意向についてお聞きした結果となっております。「他の場所へ住み替えたい」と回答された方の多くが、市内や市外の生活利便性の高い地区への住み替えを望んでいる結果となっております。

12 ページをお願いいたします。

市街化調整区域の農地や山林の使い方についてお聞きした結果となっております。市街化調整区域の農地等の使い方については、「当面、現在のまま使い続ける」と回答した方が多くなっております。

13 ページにつきましては、来年度開催を予定しております市民懇談会への参加意向をお聞きした結果となっております。

アンケート結果につきましては以上となりますが、参考といたしまして、14 ページ以降にアンケート調査票をおつけしております。

また、このアンケート結果につきましては、速報版として単純集計のみを行ったものでありますので、今後は年齢や性別等の属性ごとにクロス集計などを行い結果の分析を進めるとともに、本日は集計作業の都合上おつけしておりませんが、回答者からいただきました自由意見がたくさんございますので、これらから市民ニーズの傾向を捉え、前回の策定委員会でご説明させていただきましたとおり、地域別構想などの各項目において、検討の際の参考としていきたいと考えております。

続きまして、議題(2)「ワーキンググループの検討状況について」ご説明いたしますので、恐れ入りますが、お手元の資料、資料2をお願いいたします。

策定部会といたしまして「中心拠点あり方検討ワーキンググループ」「産業系土地利用検討ワーキンググループ」及び「桃花台地域拠点あり方検討ワーキンググループ」の三つのワーキンググループを設置しているところでございますが、それぞれのワーキンググループで第1回目のワーキング会議を開催いたしましたので、報告させていただくものでございます。

第1回目ということで、それぞれのテーマにおける現状の確認やテーマに対する意見交換を行ったところであり、今後はそれぞれのテーマについて検討を進めていくこととしております。資料には、各ワーキング会議の開催日時や会議内容、意見等や今後の予定について記載をしております。

資料の1ページをお願いいたします。

第1回目の中心拠点あり方検討ワーキング会議では、中心拠点の現状確認として、人口動向や土地利用等の基礎的データの確認等を行うとともに、中心拠点のあるべき姿について意見交換を行いました。

今後につきましては、先ほどご説明いたしました市民アンケート結果から見える中心拠点に関する市民ニーズを確認するとともに、中心拠点の課題と今後のまちづくりの方向性などについて検討を進める予定としております。

2 ページをお願いいたします。

産業系土地利用検討ワーキング会議では、現状の土地利用実態の確認として、市街化区域の工業系用途地域内や、現行の都市計画マスタープランで位置づけられる市街化調整区域の産業候補地区内の状況確認や、市街化調整区域地区計画に関する愛知県の考え方、目標とする産業フレームの検討等を行うとともに、産業系土地利用全般に関する意見交換を行いました。今後につきましては、

方策等について具体的な検討を進める予定としております。

3 ページをお願いいたします。

桃花台地域拠点あり方検討ワーキング会議では、桃花台ニュータウンの現状確認として、人口動向や都市計画上の位置づけ、公共交通網等の基礎的データの確認等を行うとともに、少子高齢化の進展に伴う課題や課題への対応等に関する意見交換を行いました。

今後につきましては、市民アンケートから見える桃花台ニュータウンに関する市民ニーズを確認するとともに、課題や今後のまちづくりの方向性などについて検討を進める予定としております。

以上、簡単ではございますが、議題（1）及び議題（2）の説明とさせていただきます。よろしくをお願いいたします。

【大塚委員長】

ただいま事務局から、市民アンケート調査の結果と、市の内部で組織をさせていただいているワーキンググループの第1回目が開催されたということで、その概要についてご説明をいただきました。

アンケートにつきましては、基本的に前回と比較して今回どうかというところを中心とした単純集計というか、前回比較のデータで報告させていただいています。今後さらに年齢別、あるいは地区別にクロス集計をかけてより詳細な分析をしていく段階だということでもあります。

報告事項ということですが、アンケートの結果を見てお気づきの点とか、(1) (2) どちらからでも結構ですので、皆さんからご発言があればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【小柳委員】

アンケートの関係につきましては、前回よりも回収率が少ないということをおっしゃってありますが、これを読ませていただいた感じといたしましては、率は少ないけれども、現状の中で、答えとしては私は予想されたような方向で的確に出されているなという感じがまずいたしました。したがって、これは非常に大切な集計だなと思います。

ワーキンググループの関係につきましては、これもまたそれぞれ適切な意見が出ていると思います。ただ、2回目があるようでもありますので、いろいろな問題提起があった場合に、あなた自身はこの問題についてどういう考えをもって進めたらいいかという問いを発言者にしたほうがおもしろいかなと。

例えば私は、桃花台の関係ですけれども、三つ大きな問題があると思うんです。「高齢化により、桃花台の中心にある商業施設に行くことが難しくなる」「桃花台の住環境は整っていると考えるが、若者の定住が課題である」と、これそのとおりなんですね。そのとおりですけれども、こういうものについてどういう方向、あなたはどのようにしたいですかという問いかけも実はしたほうが、参加者としては責任も感じるし、思いも伝わると思いますので、そういう配慮も必要かなと。そういう方向をするのかどうかも含めて、関心を持っています。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

ワーキングについては、今小柳委員がおっしゃられたようなことで、第1回目は課題について共通の認識を持ちました。その課題についてどうしていくかというところを第2回、第3回で恐らく検討されていくのではないかなと思っております。特にこういう点からもぜひワーキングで議論し

てほしいということがあれば、出していただいたらよろしいかなと思います。

【名和委員】

ワーキングの内容、これ3点ございますけれども、まさに小牧の今興味あることがそれぞれワーキングとしてされておると思っておりますが、問題は、これを一つの流れ、連携ということは今後考えていかれるのかなというところについて。

というのは、縦割りでそれぞれワーキングをやっているのは、ぶつ切りになってしまってなかなか効果の出づらいつころもあると思いますので、ぜひこの最も本当に重要だと思われる桃花台地区の活性化、中心市街地の活性化、産業の活性化といったところを一つの連携で、動線を持つために今後どうしていくんだというのをお聞かせいただければと思います。

【大塚委員長】

大変重要なご指摘をいただきましたが、事務局お答えいただけますか。

【事務局】（大澤係長）

ご指摘いただいたとおりだと考えております。それぞれ内容、関連する、連携する部分が多々ありますので、ワーキンググループの構成員についてはそれぞれ関係部署から集めておりますが、かなりが重複しております。そうしたことから整合も図っていけるのではないかと考えております。

【名和委員】

多分連携で同じ方がかぶって出られると思うんですが、よくあるように、私もいろんな会議に出ているんですが、会議に出るたびに違う頭で出てしまうんですね。そうすると連携、ひもづけしてなかなか考えられないところがあるので、そのコーディネーター、ワーキング間を結ぶためのコーディネートをやっぱりやっぺいかないと、出席者が一緒だからといってひもづいた議論になっているかというそうではない気がするんですね。したがって、意見として捉えていただければ結構ですが、それを全部、連携を取りまとめるためのコーディネートを、もうやられているかもしれませんが、あつたほうがいいのかと感じましたので、意見として。

【大塚委員長】

この配布されている資料を見ていただきますと、構成員の最後に都市政策課長がどの会議にも出られています。まさに都市政策課さんが招集してワーキングをつくられているところですので、そこら辺は担当の都市政策課さんが横断的に見られて、調整されていくのではないかと考えております。

【事務局】（永井課長）

今、委員長からもおっしゃられましたとおり、このワーキング会議、全て私が参加させていただいて、なおかつ司会進行を務めさせていただいておりますので、名和委員からおっしゃられました点につきまして十分に留意しながらワーキング会議を進めてまいりたいと思います。

【大塚委員長】

他にいかがでしょうか。よろしいですか。

では、何かあれば最後のところでまた時間をとりたいと思いますので。

続いて（3）「全体構想（案）について」を議題とさせていただきたいと思います。

それでは、この（3）につきまして事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】（大澤係長）

それでは、議題（3）「全体構想（案）について」ご説明させていただきます。恐れ入りますが、お手元の資料、資料3をお願いいたします。目次の書かれたものになりますが、資料3をお願いいたします。

都市計画マスタープランにおける全体構想部分につきましては、都市づくりの目標や将来都市構造、都市づくりの方針等の項目で構成する予定で検討を進めておりますが、本日ご説明させていただきますのは、このうち前半部分の三つの項目となります。

表紙の目次をごらんいただきたいと思いますが、一つ目が、こちらに1と書かれております「現況特性の整理」、二つ目が、その裏面になります目次の部分になりますが、中段あたりにございます「課題の整理」、そして三つ目が、その下に3とございます「都市づくりの目標」の3点でございます。

それでは、初めに「現況特性の整理」でございます。

現況特性の整理といたしましては、目次にごございますように、人口や世帯数、産業、市民交通流動等、(1)から裏面の(11)について、既存データを収集し、客観的なデータとしてそれぞれ整理しております。

それぞれの内容につきましては、時間の都合もございまして説明を省略させていただきますが、概要につきましては、次の項目であります「課題の整理」の部分で説明させていただきますので、恐れ入りますが、資料少し飛びますが資料の50ページの上段の部分をお願いいたします。課題の整理をまとめたものになります。

上段の本文にごございますが、課題の整理では、国土のグランドデザイン2050や愛知の都市づくりビジョンといった国土交通省や愛知県の計画等を参考に、これからの都市づくりにおいて重要と考えられる五つの視点、「都市構造」「都市活力」「都市生活」「都市環境」及び「都市運営」という五つの視点を外的要因と設定いたしまして、その上で、現況特性の整理で整理いたしました部分から本市の強みと弱みを把握いたしまして、今後の都市づくり上の課題を抽出・整理しております。

初めに、(1)都市構造の視点、具体的にはコンパクト・プラス・ネットワークの都市構造の視点となりますが、現況特性の整理から導かれる本市の強みといたしまして、市街化区域、特に桃花台ニュータウンや小牧駅周辺への人口集積、市街化区域内における日常生活を支える都市機能の広い分布、市全体をおおむねカバーするバス路線が設定・運行されていることなどを挙げました。一方、弱みといたしましては、今後の人口減少傾向とか都市的低・未利用地の存在、中心拠点における商

店街の衰退傾向を挙げております。

次の 51 ページをお願いいたします。

これらの強み弱みを踏まえまして、課題として「強みを伸ばす」と「弱みを克服する」という双方の観点におきまして、抽出・整理をしております。

まず、「強みを伸ばす」では、市街化区域における人口密度の維持・上昇を図ることや、日常生活を支える都市機能を今後とも維持・充実させていくこと等といたしました。また、「弱みを克服する」では、今後の人口減少を緩やかにすることができるよう、現在の市街化区域を基本にさらなる定住促進を図ることや、中心拠点については、本市の顔としてにぎわいの創出・活性化を図ることといたしました。

次に、(2) 都市活力の視点、言いかえますと産業振興や交流拡大の視点でございます。

強みといたしましては、製造業を中心とした就業の場の充実を背景に、20 歳代の男性の転入が顕著なこと、事業所数・従業者数・製造品出荷額等は周辺都市と比べ高いこと、都市計画道路の整備率は約 9 割となっており、幹線道路によるネットワークが形成されていること、小牧山や市民四季の森など、市内外から多くの人を訪れる観光資源が中心拠点や市の東部を中心に分布していることなどを挙げております。

52 ページをお願いいたします。

一方、弱みといたしましては、卸売業及び小売業ともに事業所数、従業者数等は減少傾向にあること、工業系用途地域内には都市的低・未利用地が残されていること、中心拠点において事業所及び従業者数は減少傾向にあることなどを挙げております。

次に、これらを踏まえた課題でございますが、「強みを伸ばす」では、高速道路等の広域交通体制による利便性を活かし一層の工業・物流機能の集積を高めること、雇用の場をより一層確保していくこと、中心拠点や市の東部を中心に交流人口の拡大を図ること等といたしました。また、「弱みを克服する」では、都市的低・未利用地の活用等により今後の産業立地の受け皿の確保を図ること、工住混在が見られる準工業地域では、双方の環境悪化を防止すること等といたしました。

次に、(3) 都市生活の視点、言いかえますと地域コミュニティの活性化や安全・安心の視点でございます。

強みといたしましては、市街化区域内には日常生活を支える都市機能が広く分布していること、市街化区域内の約 4 割で土地区画整理事業といった面的整備が実施されていることなどを挙げております。一方、弱みといたしましては、高齢化の進展が見込まれること、資料 53 ページをお願いいたします。都市基盤施設が不十分な市街地が残されていること、浸水等災害の危険性のある区域があることなどを挙げております。

次に、これらを踏まえた課題でございますが、「強みを伸ばす」では、日常生活を支える都市機能を今後とも維持・充実させていくこと、整った都市基盤施設を活用しながら良好な居住環境を創出していくことを挙げております。また、「弱みを克服する」では、地域コミュニティの再生・活性化を図ること、公共交通網の維持・効率化を図ること、都市の防災性の強化や公共施設等の耐震化を進めること等を挙げております。

次に、(4) 都市環境の視点、言いかえますと環境負荷低減・自然保全の視点でございます。

強みといたしましては、公共交通利用者数が増加傾向にあること、都市公園は全国平均程度の整備が図られていること、小牧山や歴史文化的資源が分布していることが挙げられます。

54 ページをお願いいたします。

一方、弱みといたしまして、代表交通手段として自動車の割合が増加しており、周辺市と比較しても高い傾向にあること、農地・森林・生産緑地は減少傾向にあることを挙げております。

次に、これらを踏まえた課題でございますが、「強みを伸ばす」では、環境負荷低減の観点からも公共交通網の維持・効率化を図ること、小牧山や歴史文化的資源等と調和した都市景観を誘導すること等を挙げております。また、弱みを克服するでは、市街地を取り巻く農地や森林の保全や活用を図ること、市街化区域内の農地について、今後のあり方を明確にすることを挙げております。

次に、(5) 都市運営の視点、言いかえますとストック活用・担い手づくりの視点でございます。強みといたしまして、安定した財政力や工場等の立地需要が高いことを挙げております。

一方、弱みといたしましては、本市に限ったことではございませんが、社会保障費等の扶助費の増大や、公共建築物の維持更新費用の増大を挙げております。

次に、これらを踏まえた課題でございますが、強みを伸ばすでは、鉄道駅やバス停を中心にコンパクトな都市構造への転換や、さらなる産業立地の促進により将来にわたって安定的な財政収入を確保することを挙げております。また、弱みを克服するでは、今後の財政見通し等を踏まえ、効率的で効果的な都市づくりを進めること、住民や民間事業者等との協働を促進すること、インフラの老朽化対策として効率的な修繕や更新、更新コストの削減を図ることを挙げております。

資料の 55 ページをお願いいたします。A3 の資料になります。

ここでは、課題の整理において導かれた課題を踏まえ、施策の大きな方向性を示す「都市づくりの目標」を整理しております。

55 ページ、A3 の左側には、先ほどご説明いたしました五つの視点から整理した課題を記載しております。そして、右側には、それらを踏まえた都市づくりの目標を挙げております。

都市構造の視点からの都市づくりの目標といたしましては「中心拠点や地域拠点、名鉄小牧線沿線を中心に居住や都市機能が集積した集約型都市づくり」、都市活力の視点からの都市づくりの目標につきましては「自然と調和しながら、新しい活力や多様な交流を育む産業基盤づくり」、都市生活の視点からの都市づくりの目標につきましては、「自転車や徒歩、公共交通を重視した、車に過度に頼らなくても安全・安心に暮らせる生活圏づくり」、都市環境の視点からの都市づくりの目標につきましては「小牧の自然や歴史を大切に、誇りの持てる都市環境・景観づくり」、そして、都市運営の視点からの都市づくりの目標につきましては「将来にわたり健全な都市運営が可能な持続発展を続ける都市づくり」と、それぞれ都市づくりの目標として掲げております。

56 ページをお願いいたします。

本市が目指すべきおおむね 20 年後の都市の姿を明らかにしようとするものであります。

中段でございます凡例のとおり、各ゾーンとか拠点、公共交通軸を、その上にごございます土地利用イメージの図のとおり整理しております。土地利用につきましては、住宅地や工業地などとして利用されておりますこれまでの状況でございますので、これらの状況も踏まえまして図化しております。

本市を南北に縦断いたします名鉄小牧線の沿線につきましては、日常的な都市機能の維持・充実等により一層人口等の集積が図られた市街地の形成を目指す「高密度市街地ゾーン」に設定し、これを挟み込むように「居住ゾーン」とか「産業ゾーン」等を設定しております。また、小牧駅から小牧山周辺のエリアを「中心拠点」に、味岡駅、藤島、桃花台につきましても、これまでどおり「地域拠点」としております。そして、小牧駅周辺や市民四季の森や温水プール等のある東部について、「広域交流拠点」と位置づけております。そのほか、立地適正化計画とか公共交通に関するマスタ

ープランであります地域公共交通網形成計画を踏まえながら、公共交通軸を設定しております。

56 ページの下段から 57 ページにかけては、各ゾーン等の考え方をそれぞれ記載しております。

以上で「全体構想（案）について」の説明とさせていただきます。

【大塚委員長】

今、事務局から、既存のいろいろなデータを、特に都市計画にかかわる部分について整理し、そこからどういう課題が見えてくるのか、小牧市の強み、弱み、内部的な要因、外部的な要因という点から整理をされました。それをもとにこの五つの視点で課題を整理されて、視点ごとに都市づくりの目標を掲げたというご説明をいただきました。

それと、土地利用構想としては、大きな都市づくりの骨格について、ゾーン設定、そして拠点の配置、それを結ぶ公共交通軸、そういうもので都市の骨格、土地利用のイメージを考えていきますというご説明をいただきました。これは全体構想の前段部分というご説明でしたけれども、全体構想としては、この後には具体的にどういうものが続くかご説明いただいたほういいかなと思いますので、お願いします。

【事務局】（大澤係長）

今回議題として出させていただいた項目のほか、全体構想といたしましては、現行の都市計画マスタープランを例にいたしますと、将来都市構造と都市づくりの方針の二つがございます。

将来都市構造につきましては、将来市街地の考え方ということで、例えば住居系の市街地とか工業系の市街地を市街化区域の中でどのようにしていくのか、もしくは、その市街化区域の中ではおさまらないということであれば、市街化調整区域についてもどういうふうに考えていくのかといった将来の市街地に対する考え方の整理や、先ほど都市の骨格ということで委員長からお話ありました図がございますが、こちらの土地利用の構造をもう少し細かくしたものを将来都市構造では設定します。また、その中で、将来人口についても整理していくこととなります。

もう一つの都市づくりの方針につきましては、土地利用の方針とか公園の方針、下水道の方針という、いわゆる都市計画でいうところの都市施設の整備の方針を決定していくとともに、交通体系の整備とか立地適正化に関する方針など、基本的な方針を位置づけていく都市づくりの方針が全体構想としてはございます。

【大塚委員長】

今のご説明を聞かれたように、かなり具体的な細かい、将来人口に基づいた市街地をどうしていくのか、そしてそれぞれの分野ごとにどういう考え方で都市づくりを進めていくのかというのはこの後に来るということです。今日はその前段として、全体として小牧の都市づくりを、どういう目標を掲げてどういう課題を克服していくところに重点を置きながら進めていくのかという、そこら辺を皆さんで共有していただき、もっとこんなことを重点的に、こういう課題が抜けているのではないか、これは弱みと言っているけれども、見方によってはかなり小牧の強みになったりするのではないかという、いろいろな見方があると思いますので、皆さん資料を見ていただいて何か疑問になる点、あるいは何か考えてご意見を持たれたことがあれば、そのあたりをご発言いただきたいと思います。いかがでしょうか。あるいは、資料を見てきたけれども、ここら辺の話がよくわから

ないのでもう少し詳しく説明してほしいということでも結構ですので、ご発言をいただければと思います。

【萩原委員】

課題について何か提示できるほどの知識もないので質問という形で。

今回、55 ページの都市づくりの目標というところで、この都市づくりの目標といったときのまちづくりとの違いを教えてくださいと思います。都市計画マスタープランの概要版とか都市計画そのもの、平成 12 年にマスタープランをつくられましたよね。そのときにはまちづくり、例えば平成 12 年の本市の将来像やまちづくりの方針を定めた都市計画マスタープランがあって、概要版のほうを見させてもらおうと、今度都市づくりの基本理念というところで「活力あるまちづくり」とか「持続発展するまちづくり」とか「魅力・美しさあるまちづくり」とあるんです。「都市づくり」と「まちづくり」ってどう違うのか、これをまず素人ながら知りたい。

それがどうしてここで議論したいのかというと、55 ページの (5) の都市運営の視点というところに担い手づくりとあります。この担い手づくりに関しましては、市民と協働した形で都市づくりをしていく。そこで一番初めに、資料 1 のアンケート調査で市民がまちづくりに参加したいといったときに、実は今回のアンケート調査では全然まちづくりに参加したくないという声がある、それも大きな課題であると私は考えていますので、そうであるならば都市づくりとまちづくりをまず知りたいということと、市民のまちづくりに参画する、前回に比べて今回すごく少なくなっていることについてどういうふうに捉えていったらいいのかを私自身も考えたいので、まずその点教えてください。

【大塚委員長】

今 2 点ご質問いただきましたが、どうでしょうか。

【事務局】（大澤係長）

今回の都市計画マスタープランの改定では、市全体で考えたときには「都市づくり」という言葉を、地域ごとに落とし込んでいく地域別構想では「まちづくり」という言葉を使うことを考えております。

あとは、市民協働ということで、今後市の行政だけではやはり限界があるということで市民協働、担い手づくりということを入れていますが、委員がおっしゃられるとおりアンケートの結果としては前回よりも、内容としては来年度の市民懇談会へ参加していただけるかどうかという視点でお聞きはしているものの、ちょっと参加の方が少ないというのが課題なのかなと思っております。

以上です。

【萩原委員】

わかりました。市全体で考えたときに「都市づくり」という形で、地域構想に関しては「まちづくり」という使い分けを小牧市でやっていることはよくわかりました。その上で、市民についてもこの点十分に周知していかないといけないと思います。

というのは、このアンケート調査ではまちづくりに関して参画するかどうかという話ですよ。それを、例えばこのアンケート調査を踏まえて都市づくりにどう反映させていったらいいのかというところで、実は都市づくりに関して市民は知っているのかなと、まちづくりと都市づくりの区別は知っているのかなというところを私も懸念しますので、そういうことを踏まえながら、市民に対する周知も今後行っていってもらいたい。これが一つの私の意見です。

【大塚委員長】

よろしいでしょうか。

今のご意見を伺って、このアンケートだけを見れば小牧市の市民のまちづくりへの参加意識が低いというふうに読み取れるのですが、果たしてそれだけでそう言っているのか、あるいはもっと別の視点からすると、結構いろいろなまちづくりとか市民活動の団体とか自主的な活動をやっているところは結構増えており、そんなに参加意識は低くないよ、小牧の市民も捨てたものじゃないよという実情があるのであれば、それも盛り込んで判断しないとイケないのかなと感じています。

【名和委員】

関連なんですけど、都市づくりとまちづくりの違いということを伺って、私の個人的な解釈ですが、まちづくりというのはイコール行動のような気がしているんですね。過去、青年会議所等々でいろいろまちづくり等々もやってきましたけれども、要は、具体的にどれだけの行動がとれるか。それが町の活性化とか市民の活性化といったことにつながっていくかというところで、まちづくりイコール具体的な行動的な発想という解釈があったんですけども。当然現在小牧でも NPO とかささまざまな団体がいろいろな活動を実はされておる。そういう活動が周りにいながら、参加されたくないというアンケートと若干矛盾があるようにも思えるし、まちづくりをやられている方たちとアンケートをとった対象の方の温度差も当然あるでしょうし。アンケートというのは偏った答えが出てくることも当然あるかと思うんですね。NPO の団体の方とかさまざまな団体に対するアンケートだとまた違った答えが出てくるかと思しますので、その辺の精度をもう少し詰めていったほうが。

今のお話、質問から得た答えから私が疑問に思ったところはそこでありますので、そういったところをぜひ言っていただければ。

【大塚委員長】

この参加したいかどうかという質問は、多分そのことに関してはよくわからない、自分がそういうのに参加していいのかどうか判断がまだつきかねない中での回答ということもあったりする。先ほど萩原委員からご指摘あったように、主体的に行動してもらったり、参加してもらったりするためには情報が提供されていないと行動に結びつかないということがあります。市民の参加意識が低い高いにかかわらず、やはり情報を提供して共有して参加しようという気持ちにさせるような環境というか、そういう条件整備をしていかないといけないのかなと思います。

【国際開発コンサルタンツ（山本）】

作業班から一言補足させていただいてよろしいですか。

お手元のアンケート結果の 13 ページですけれども、ちょっと誤解があるといけないので、作業班として集計した立場の者から補足させていただきます。

13 ページの、「まちづくりに対する市民参加の意向について」というふうに表題部を書いてしまったので非常に誤解を生んでいるのかなと思ひまして。実は今回アンケートで問うたのは、市民懇談会、地域別のこれから構想をつくっていくに当たって、そういう懇談会へ参加してもいいですかということですを聞いたアンケートの結果でございます。ですので、残念ながら地域別懇談会へは参加したいよという方の意向はやや少なかったんですが、この意向をもってそういった身近なまちづくりに即参加したくないかという、ちょっとそこは違うかなと思ひますので。今回、地域別構想の懇談会をする中で、改めて参加された方にこういった身近なまちづくりに参加する意向があるのかなのか、どの程度意向があるのかはそのワークショップを通じてまた確認をしていきたいと思っております。したがって、このアンケートの見方だけ補足させていただきました。

【小柳委員】

僕は最初に、アンケートの調査結果については、おおむね自分の方向づけのとおりだと認識していました。今おっしゃったようなことで、僕もこのワークショップには、地域でやるには必ず参加しています。こういう場で発言できる機会があるのでそこでは発言しませんけど。そんなようけ集まらんですわ、場所的にも。ですから、ここの数からいうと、アンケートをとったのと、今言われるように、地域で呼びかけて参加する、積極的な人が参加します。

ですから、15 万人おるから 15 万人というわけにはいきませんので、地域の代表者として世話役活動をしている人たちがかなり集まってきている。そういう意味からすると、この数字に捉われることはないのではないかという形で最初に感想を述べさせていただいたということだけつけ加えたい。

【事務局】（大澤係長）

いただいたご意見で住民に対して情報を出してというお話もありましたので、募集の際には、こういったことをやりますという具体的な情報を出しながら募集を図っていただけらなと思ひました。ありがとうございました。

【小柳委員】

課題の整理と都市づくりの目標ということでそれぞれ整理されてきて、これはこれで反対するものではないと思ひますので、これを真摯に努めていくことが大事ですけど、結果は、この課題や目標に対しての具体的な施策が極めて重要になってくると思ひます。

ワークショップの中でまたそういう発言ができるのかどうかわかりませんが、例えば僕の地域でいきますと、東部ですと、ずっと調査を見ていますと、例えば史跡があったとして、小牧山も史跡ですね、大山廃寺跡も史跡なんです。大山廃寺跡というのは、史跡になっておっても訪れる人なんてほとんどないですね。こういうものをどうやって引くかということも極めて大事。

もう一つは、東部には JR 東海のパンタグラフの研究所があるんですね、せっかく魅力的なもの

があるにもかかわらず全く閉鎖的で、何か小牧のパーツにはなっていないような気がするということがあります。

もう一つは、名古屋コーチンは小牧が発祥の地だということで商工会議所がかなり力を入れているし、役所も力を入れていると思います。地域も力を入れているんですけども、海部壮平さんの碑がありますよ、ここが発祥の地だという。僕も時々行くんですけど、その周りは草まるけ、発祥した人が本当に私のためにつくってくれたのかというような、周りは草まるけです。ですから、僕の考えは、ああいうところでも、小牧が名古屋コーチンの発祥の地だよということをアピールすることも必要だと思います。それはどうするかというと、あそこを整備して、年に一度ぐらいは名古屋コーチンの発祥の地ということを大々的に PR して人を呼ぶということも大事。

この間要望書を出しましたけれども、ハイウェイオアシスやスマートインターの関係も、あの点は具体的になってくると思います。そうなりますと全体的に、産業もそうですし、地域に張りつくのもそうですし、桃花台の高齢化も解決を一部できるだろうしという。そういうさまざまなことをワーキングに参加したときに言えるかどうか、ここで今具体的に申し上げることはできないですけども、そういうことが一つ一つ方向づけを、目標に対する背景をつくり上げていかないといけないような気がします。

【大塚委員長】

観光というか交流というか、広域交流という中で、誰もが知っている資源を PR していくのと同じ時に、あまり知られていないものをちゃんと発掘するなり、ちゃんと磨きをかけて情報発信していくということ。個々の資源が埋もれていたりするので、それをやはり磨きかけて PR していったほうがいいのではないかとこのように受け取らせていただきました。

ちなみに、名古屋コーチンの碑があるのは、小牧市域にあるのですか。

【小柳委員】

東部の池之内地区にあるんですよ。その碑もあるし、名古屋コーチンの像が駅前にありますけれども、発祥の地としてうたうなら、そこを大事にしながら、そこに人が寄って名古屋コーチンをさらに外部にも発信することが本当はできなきゃいかんと思う。だから、そういうことの発信をしていくことも極めて重要じゃないか。

ポリテクセンターも小牧にあるし、さまざまなものがあるんですよ。ここに載っている高根遺跡もあるし、桃花台の中央公園には篠岡の古窯 47 号もちゃんと集まってるんですよ。これ、壊すというやつをだめだといって 150 メートル移設してもらったんです。こういうのだから誰も知らない、ただ松林の中に眠っているだけで。そういうことも掘り起こしていけばいいんじゃないか。そういうことがあまり上手でないと、僕らも下手なのかもわかりませんが、そんなことをもう少し積極的にやって外部に発信していくことが。具体的な例として名古屋コーチンを挙げたんですけど。

【船橋委員】

課題の整理の 53 ページで公共交通利用者数は鉄道、バスとも増加傾向にあるとおっしゃっているんですけど、弱みのところで逆に自動車の割合が増加を続けているって、何か矛盾しているかなという気がしたので。どちらが正しいんでしょうか。公共交通が増えれば自動車の利用が減るかなという理解かと思うんですけど。

【事務局】（大澤係長）

まず、こちらで強み、弱みを出したものとなるのが、先ほど説明を省略させていただいた現況特性の整理にそれぞれデータがございまして、鉄道、バス増加傾向というものについては9ページをごらんいただければと思います。

公共交通という項目を整理させていただいていますが、9ページの上段につきましては名鉄小牧線の乗降客数ということで、小牧市内に限らずというところではありますが、年々、こちらのグラフを見ていただきますとおり、平成15年に地下鉄の上飯田線と相互乗り入れして以降徐々に増えているという状況がありまして、12ページの上の表につきましては、こまき巡回バスの利用者数の推移になりまして、こちら右肩上がりということで、平成29年には年間68万余の方が利用していただいている状況でありましたので、これらのデータを踏まえて、強みのほうで鉄道、バスともに増加傾向にございますということをまず置いています。

次の、代表交通手段につきましては、次のページの13ページに代表交通手段ということでデータがございまして、上のほうが昭和46年から平成23年までの自動車の利用率を調査したものになりますが、真ん中の黄色のバーが自動車の利用率になります。こちらのデータから、実は年々自動車も増えております。

これらのデータそれぞれを用いて強みと弱みを抽出したところでございます。

以上でございます。

【船橋委員】

市外の人の動きが多いということですか。どういうことですかね。

【小柳委員】

市外から入ってくる人が大分多い。昼間人口が多い。

【船橋委員】

というデータが入ってるんですよ、そういうことですね。

【大塚委員長】

13ページのところは、要するに割合なので、自動車が増えれば公共交通は減るという、100%の中の内訳の話ですよ。

【船橋委員】

ですよ。だから、公共交通が増加済みということは。

【大塚委員長】

増加済みというのは、実数。車社会で、車の利用はどんどん普及しているわけです。一般的に公共交通の割合としては減っているけれども、実際の利用者の数を見てみると実数としては増えてきていますということ。それはやはり小牧の強みではないでしょうか。

【船橋委員】

どちらも正しい。

【大塚委員長】

はい。割合と実数の違いだと思います。

【事務局】（大澤係長）

補足です。

先ほど委員の方のお話にあった昼間人口が多い、要は外から入ってくる人が多いというお話もデータとしてはございまして、資料の8ページの上の図面になります。左側が通勤の流動で右側が通学の流動ということで、青の矢印で行き先をあらわしているんですが、右下に流入合計と流出合計ということで、通勤に関しては流入のほうが倍以上ということで多くなっている。一方、通学については流出のほうが多いという状況をあらわしています。

【船橋委員】

わかりました。ありがとうございます。

【大塚委員長】

小牧市というのは、そういう意味では働く場所があつて、この地域の一つの拠点的な位置づけがなされているということだと思います。

【名和委員】

前回の議論の中で、私が発言したところで私も勘違いしておりまして。このマスタープランのワーキングに関しては、ハード面とソフト面、都市づくりの発言として、どちらかというところハード面を優先して、そういった議論を中心としたものというふうにお伺いしたんですよね。それを踏まえた上で今回発言させていただきますと、小牧市全体を一つのコミュニティと捉えた場合、それを維持、持続可能なコミュニティとしていくためには、やはり原資となる税収が必要なわけですよね。小牧が今まで優位に動いてきたのは、トラックターミナル等々に始まる物流と工業による法人税の収入というのが非常にあったんです。

今回、都市づくりの目標を伺っておりますと、前回と打って変わってソフト面の充実というのが中心になっているように思われるわけです。そうなってくると、法人税収入等々を考えた企業の誘致とかいったもののまちづくり、箱物に関する誘致とかが優先されるのか、そのほかの住みよい町にかかわる提案というのが優先される、どちらが優先で今考えられているのかなど。

どちらかといえば、都市づくりは当然収入と住みやすいまちづくりと両輪だという話になっていくんでしょうけれども、今回は工場誘致とかいったのよりも人の住みよいまちづくりというのを中心に表現されておるので、どちらで議論すればいいのかなど。それを伺ってから議論させていただきたいんですが。

【事務局】（永井課長）

どちらかが優先という認識では私どもなくて、どちらも重要だと認識しております。

まだ具体的なものが書いていないものですからなかなかイメージしづらいとは思いますが、資料2で説明させていただきましたが、ワーキング会議を三つつくっているうちの一つに、産業系土地利用検討ワーキング会議というのをつくっております。こちらの会議でさらに産業系の土地の活用、ひいては税収を伸ばすようなところにつながるんですけども、あと、この小牧市内にはどこでそのような産業系の土地活用が可能なのかというのを今後具体的に詰めてまいりたいと考えております。書きっぷりとして市民生活のほう为重点ではないかというイメージを持たれたと思うんですが、産業系土地利用に関しましても、そのあたりについてはフォローして何とかここに書き込んで、そちらのほうも重視しているということで最終的には仕上げていくことになろうかと考えておりますので、もう少し進んだ段階でそれがお示しできるのではないかと考えております。

【名和委員】

というのは、こちらでいろいろ検討されて、税収の確保というのはこちらでやってくれと、そして得た収入を今度はこちらのソフト部分で活用していくという流れで進められるということ。

【事務局】（永井課長）

都市計画マスタープランでは「税収を確保します」と書けないものですから、こちらについては、産業系の土地利用のあり方としてこういうのが望ましいという書き方までということになろうかと思えます。

【名和委員】

根底にあるのはやっぱりそこでしょ。

【大塚委員長】

今の名和委員のご発言は、やはり都市づくりを考えていくに当たっては収入という部分を抜きにしては語れないわけで、そういう部分は重要だということかと思えます。この視点でいうところの（5）都市運営の視点というところで、やはりそういう安定的な財政力を維持するためにはさらなる産業立地の促進とか安定経営的な財政収入の確保が必要だという課題を挙げていますし、（2）都市活力の視点というところで、黒丸の下から三つ目でも土地利用の適正な誘導等による今後の産業立地の受け皿の確保ということを一応課題として挙げているわけです。そのために土地をどういうふうに確保するのかというのを、この後の具体的な土地利用計画とかの中で提示していくことになると思えます。ですから、必ずしもここに今回挙がっているのが、ソフトの話ということではなく、かなりハードな部分を中心であるとは思えます。

【小林委員】

地域活性化営業部長の小林といいます。

私、農政部局も担当しておりますので、その視点から確認させていただきたいんですけど。

56 ページの土地利用構想の中で、29 年 3 月に作成した都市計画マスタープランでは将来都市構造とか、上位計画の第 6 次総合では「田園」というキーワードが入っていたんですけど、これを消したのは何か理由があるんですか。トレンドですか。というのがまず 1 点。

あと、そこで産業ゾーンという言葉があるんですけど、実は農業は第一次産業ですので、産業ゾーンはイコール工業だけというイメージは非常に誤解を招くなと思っています。農業者も結構小牧市にはまだいますし、農業振興というのでいろいろな活動もしていますので、そのあたり、都市計画マスタープランということで、都市ということで全体を見た中で農業も一つの大きなファクターだと思っていますが、そういった部分で見解をお示しいただきたいなと思います。

【大塚委員長】

都市計画マスタープランで農業をどう捉えて、位置づけて考えていくのかという、根本的な部分になろうかと思っています。

【事務局】（大澤係長）

まず、「田園」という言葉がということでしたが、57 ページ、先ほどご指摘いただきました、田園という言葉が消えたという自然環境ゾーンですが、その心はといつたときに、農地ということが 57 ページに書いてあるとおりでございまして、農地は含んではいるんですが、名前としてはけしていますので、今後農政部局とも協議しながら詰めていきたいと思っています。

【舟橋委員】

私、小牧に住んで 70 年以上たつんですが、昔は家の後ろで、西側でカエルが田植え時期になると鳴いていましたけれども、今はもう鳴くことはありません。昔は田畑ばっかだったんですけども、全て工場用地みたいなんです。だから、そういう点では、面積は明らかに減っていると思います。ただし、農業、第一産業で頑張ってみえる方もたくさんあります。

私も、先ほど名古屋コーチンの話が出たときに思ったんですが、例えば小牧の場合、梨農園も結構あります。ミカン狩りと同じように梨狩りができないかとさっき思いました。できるできないは別。やったこともないですけど、そういうこともやってみたい。できないかもしれませんが、できない可能性も高いですが、そういうことも考えて、そういう隠れたものを拾い出すのが先ほどの都市づくり、まちづくりのソフトの面じゃないかなと私は思いました。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

今のは、どちらかというと調整区域の農地というか、その部分をどうするのかということかと思っています。これも都市計画マスタープランで考えなければいけないところだと思いますが、もう一方の市街化区域内の農地もどうするのかということがあります。国のほうも都市緑地法を改正されて、どちらかというと市街化区域の中の農地はやはり農地として残す方向で、都市の環境を維持するためには都市の中の農地も市街地の中の農地も必要だというのが今の国の動きとしてあるわけです。

そういうことに対して小牧市としては、それはそのとおりだということで行くのか、いやちょっと待てよというのか。この都市計画マスタープランの委員会の中で、市街化区域内の農地をどうしていったらいいのかということも、いろいろとご意見いただいたらいいのかなと思っております。

【林委員】

先ほど、公共交通の利用がだんだん伸びていくという話が、状況がございました。それを受けて、課題の整理の(1)都市構造の視点のところに、鉄道・高速バスにより名古屋市内への公共交通ネットワークが形成されているとか、あるいは(4)都市環境の視点、CO₂の視点の中で公共交通の維持・効率化が必要だというふうにある程度つながっているとは思いますが、一方で、先ほどアンケートの評価があるんですけども、アンケートとしては市民に対しては満足度、自由度、重要度を置いて、鉄道やバスなどの公共交通の便が満足度が最も低いとなっております。この辺をくみ取るような表現をどこかでされたほうがいいのか、もともと表現されているのかどうか、その辺はちょっとわかりづらいなと思ったものですから、よろしくお願ひしたいと思ひます。

【大塚委員長】

今の点につきまして、事務局いかがでしょうか。

【事務局】(永井課長)

小牧市におきまして、公共交通も私も都市政策課で所管させていただいております。今、小牧市の特にこまき巡回バスがどのような状況になっているかを少しご説明させていただきたいんですが。

こまき巡回バスのようなコミュニティバスは、近隣市町と比べるとかなり小牧は充実しています。それは、おおむね1時間に1本程度のダイヤで、なおかつ自宅から半径500メートル以内にバス停があるという条件でやっている市町は、実は小牧市は大変充実している状況にございます。

しかしながら、まだまだ効率的ではないという部分も含めまして、市民の方々の要望はかなりたくさん寄せられる状況にあります。具体的には、例えば30分に1本走らせてほしいとか、もっと自宅の近くにバス停が欲しいとか、早朝深夜の時間帯にも走らせてほしいとか、要求ですので、それはどちらかといえば切りがない状況で寄せられる状況でございます。

今、小牧の特にこまき巡回バスが抱えている課題が、市の負担金といたしましては約3億3,000万ぐらいを負担している状況でございますが、さすがにこれ以上負担していくのはなかなか持続可能ではないということですので、もっと効率的にするということを検討しております。

ですので、アンケート調査ではまだまだとても公共交通としては及第点ではないよというアンケート結果が寄せられたということも含めてこれから検討していきますが、そうした中で少子化・高齢化、人口減少という中で公共交通がどのようにあったらいいのかというのは大変大きな課題でありますので、それは引き続き検討していきますけれども、寄せられたアンケート調査では市民の方の関心が非常に高いという結果が得られた。公共交通についてはCO₂削減も含めて、これはきちんと充実していかなければいけないという方向性にあることは間違いないということですので、そのあたりをうまく表現していきたいと考えております。

【名和委員】

最終的に、小牧のまちづくり、都市づくりの核となるものは何をお考えなのかなということ。というのは、過去、先ほどの続きになるんですけど、税収の法人税収入。文化都市とか経済都市とか工業都市、物流都市いろいろありますよね。最近では、小牧市はこども夢・チャレンジNo.1都市という宣言をされておるんですが、今後核となる都市宣言としてどういうものなのか。万遍なくいろいろ、これすごくいいな、よく考えられてるなというのは思いますけれども、核は何なんだろうということをおもったんですが。

【小柳委員】

工業都市だわ。

【名和委員】

工業都市はおもしろくないよ。税収はありますけどね。

【事務局】（永井課長）

正直なところ、何にしたらいいのかというのは今頭に思い浮かばなかったんですけど、何か一つやってという時代ではないのかなというところが多分にあります。どちらかといえば少子化・高齢化、人口減少というのをいかにして克服するかということですので、何かあるとすればそういうことですが、なかなかこれが核だよと言ってやりにくいテーマであるのかなという認識なので思いつかなかったということですが。

できるだけ都市を、特にまちづくりにおいてはコンパクト・プラス・ネットワークと言っておりますように、今までのように広げていく、拡張していく方向ではなくて、コンパクトにしていかないと持続可能にならないということがテーマですので、その中で何かいいキーワードがありましたら使ってまいりたいと考えておりますが、何かあればぜひともご提案いただければと思います。よろしくをお願いします。

【名和委員】

こども夢・チャレンジNo.1都市、そういうのを声を大にしてやられている。

【萩原委員】

マスタープランの4、5ページに「こども夢・チャレンジNo.1都市」って明記しているし、もとの将来都市像は「人と緑かがやく創造のまち」とあるので、このところも今後やっていくんでしょうね。

【名和委員】

使い分けは多分必要でしょうけどね、先ほど言った税や何か。

【大塚委員長】

そういう意味で、都市をどうしていくのかというのは、多分この都市計画マスタープランの上位の計画の中で検討されていることだと思います。そういう中で、多分今この都市計画マスタープランで一番考えなければいけないのが、人口減少時代に突入して少子高齢化ということで大きく転換

していく中で、立地適正化計画において、都市をより集約してコンパクトに、そして公共交通でネットワークした市街地にしていきたいと思いますという考えで、小牧市もこれからやっというと考えています。一方では、やはり都市として持続的に発展していくためには財政的な基盤もしっかりしないといけない。そこら辺の収入は何で得るのか、やはり産業ではないか。じゃあ、そのコンパクトに都市を集約していく中で産業としてどのようなものかを考え、そのために都市計画としてどういうところに、どういう用地をとすることを考えるのが、今回の都市計画マスタープランの一番大きな柱になるのかなと思っております。

【小柳委員】

持続可能なまちづくりということが基本だと思うんですね。ですから、人が豊かになるということは、産業も活発でなきゃいかんし、商業もまた活発でなきゃいかんと。それにはどうしたらいいかということになると思う。観光都市なんてとてもじゃない言えないから、世界遺産もないわけだからね。だから、そういうことに頼ってはいかんけども、メナード美術館さんも立派なものを持っているし、掘り起こせばかなりあると思う。そういうことで、持続可能な小牧市をどうつくり上げていくかということが基本。それには、先ほど巡回バスの件を言われましたけれども、名鉄小牧線の小牧口には19年度中にはエレベータ、バリアフリーやってきますので、28日にまた名鉄本社へ行ってさらにという要望をします。

もう一つは、田県神社前駅の時には、第3老人福祉センターの建設協議会も始まっていますので、これができるとまたあそこにもにぎわいが創出できると。小牧市民が楽しめるということになるんですけど、高齢者が。高齢者だけではなくて、近くには名古屋経済大学の生徒さんもいらっしゃるんで、そういう人たちが交流できる場にしたいかどうかという、いろいろな角度から検討は委員会でもしているんですね。ですから、いずれの角度にしても、こちらが引っ込んでこちらが引っ張るということで、お互いに自分の利益を考えて引っ張り合うことは、そういう計画であってはならんと。ですから、バランスのとれた計画を出していこうと。

先ほど言いましたように、僕が期待を持っている、高速道路の結節点で陸の要衝として発展してきた小牧市ですので、高速道路ができる、例えばハイウェイオアシスにしてもスマートインターにしても、積極的にしてそこに集客する、雇用も拡大していくという、若い人が集まるという、相乗効果を上げていくようなものをこれからも掲げていかないかんという思いが強いんですね、僕は。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

【事務局】（小川次長）

先ほど委員長も小柳委員も言われました、都市づくりの目標の一番下のところ、「将来にわたり健全な都市運営が可能な持続発展を続ける都市づくり」がベースにあって、先ほど名和委員も言われましたように、例えば企業の誘致、交通、小柳委員も言われましたようにインターの活用、観光の活用、それぞれが相まってこの目標が維持できる都市ということでできていくのではないかなと。子どものブランド、要は地域のブランドでこども夢・チャレンジ No.1 都市と言っておりますが、そのベースにはやっぱり維持できる都市がベースになってくると考えております。それにつま

しては、都市計画マスタープランの中でどこまで書き込めるかという部分が一つあるものですから、それぞれの立場の中で、また地域別構想の中でも書き込むことができるものについては、地元の皆さんの意見を反映しながら、最終的には書き込んでいきたいなと思っております。

ただ、都市計画マスタープランの中で書き込みができない部分も多々あると思いますが、その部分はそれぞれの担当課の所管する計画、あるいはそういうところで反映していただけるように進めていきたいなと思っております。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

今のお話にありましたように、課題はかなり幅広く網羅的に出していますが、全てこの課題に都市計画マスタープランの中で対応できるかという、範囲外というか対象外の部分もあったりするので、実際この後に出てくる具体的な計画になればなるほど、より絞られた内容になってくるということかと思えます。

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

ほかに特にならなければ、今回かなりいろいろと皆さんからご意見もいただいておりますので、今後具体的にさらに計画を考えていくに当たって、今日出た意見を参考に、さらに進めていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、続いて2. その他に入りたいと思いますが、事務局からその他につきまして何かございますでしょうか。

【事務局】（永井課長）

事務局から2点ご連絡させていただきます。

1点目でございますけれども、この委員会の会議録についてでございます。会議録につきましては、まず事務局で作成いたしまして、その後、委員の皆様方に内容のご確認をいただきます。その後、公表をしまいたいと考えております。

2点目といたしましては、次回の策定委員会の予定についてでございます。次回につきましては、来年の1月から2月にかけて開催させていただきたいと思っております。日程調整につきましては、また改めてさせていただきたいと考えております。よろしく願いいたします。

以上でございます。

【大塚委員長】

ありがとうございます。

次回、1月から2月ぐらいにかけてということで、またよろしく願いいたします。

そのほか、皆様方から、何か全体を通してご発言されたいことがありましたら。

なければ、これをもちまして本日の第2回目の策定委員会を閉会とさせていただきます。

ご協力いただきまして、ありがとうございました。

【了】